日本ブドウ・ワイン学会（ASEV Japan）誌
投稿規定（2016 年 10 月 01 日）

1）**編集方針**　本誌は、日本のブドウ・ワイン学および産業の発展に寄与する研究報文および解説などを掲載する。速報的な論文などは、後日その詳報を ASEV Japan 誌に投稿することが望ましい。

2）**投稿者の資格**　論文投稿者（筆頭著者）は、当学会日本部会員に限る。但し、外国人留学生はその限りにない。また、会員以外の共著者を含んでもよい。

3）**論文の種類**　論文の種類は、研究報文（原著として取り扱う original paper、research note あるいは technical brief）および総説（review など）とする。研究報文および総説の本文は「日本語あるいは英語」書きとするが、「日本語」書きの場合の表題、所属、氏名、要旨は、「日本語と英語」の両言語で記載する。図表は原則として英語で記載する。

4）**著作権**　研究報文は未発表のものに限る。掲載された論文の著作権は ASEV Japan に所属する。

5）**審査**　編集委員会は、複数の論文審査委員に研究報文の価値判断を依頼し、その結論を参考にして採否を決定する。

6）**投稿料**　投稿料は、原則として徴収しない。但し、英文校閲料、写真（カラーを含む）掲載料等の実費は、著者負担とする。

付則　この投稿規定は 2016 年 10 月 01 日から施行する。

日本ブドウ・ワイン学会（ASEV Japan）誌投稿要領

Ⅰ　投稿方法　論文の投稿は、次の要領に従う。

1）投稿論文の投稿先は、日本ブドウ・ワイン学会誌編集事務所（〒606-8502　京都市左京区北白川追分町　京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻経営情報会計学分野内）とする。

2）初回の原稿投稿時には表紙、要旨、本文、図、表、写真を個別にし、3 部印刷して提出する。修正稿は編集委員の指示に従って電子ファイル(pdf)で提出することとする。

3）投稿受付日は、日本ブドウ・ワイン学会誌編集委員会が原稿を受け取った日とする。また、受理日は依頼した論文審査員全員が「掲載可」の判断をし、編集委員会が「掲載可」を決定した日とする。

4）著者校正は初校のみとする。著者校正は誤字の訂正のみにとどめ、内容の変更は原則として認めない。

5）別刷りは校正時に注文を申し受ける。注文部数は最低 30 部とし、費用は実費負担とする。

Ⅱ　執筆要領と書式　原稿は、次の要領、書式に従って執筆する。

1）1 ページ目を表紙とし、英語で論文の種類、そして日本語と英語で、表題、著者名、所属、所属の住所、受付日、受理日を記す。所属の異なる複数の著者による場合は、氏名の右肩と、所属の左肩に肩付き番号を付し、それぞれの所属を示す。投稿責任者氏名の右肩には*を付して、脚注に「*Corresponding author (email: aaaa@bbbb.cc.jp」と記す。それぞれの項目の間に空白行を入れ、以上が 1 ページに収まるように行数と文字数は適宜調整する。

2）英語の表題は冠詞、前置詞、接続詞を除くすべての語の頭文字を大文字とする。著者名は、名、性の順とする。住所は最低限の表記とする。

2）本文は横書きとし、「日本語」の場合はA4判用紙に全角40字、25行で、「英語」の場合は半角80字、25行とする。余白は上下左右30 mmとする。フォントは、和文はMS明朝、英文フォントはTimes New Romanとし、ゴシック体を用いる場合はMSゴシックまたはArial、サイズは11ポイントが望ましい。

3）2 ページ目に英文要旨を、A4 判用紙に半角 80 字、25 行以内に書く。英文要旨の後に、Key words（英語）をアルファベット順に 5 項目程度書く。ページの左端に 5 行ごとに行数を通し番号で記す。

4）本文は 3 ページ目から書き始める。原則として、緒言、材料と方法、結果、考察（または結果と考察）、要約、文献の順に分けて書く。ページの左端に 5 行ごとに行数を要旨または本文のページから通し番号で記す。

5）下部中央にページ番号を記す。書き出しは要旨または本文のページからとする。

6）英語投稿の場合は本文の最後に日本語要旨を付け

る。

7）図表は原則として英文とする。フォントの種類やサイズは読みやすいように適宜調整する。

8）本文中の区分け、表、図および文献は、次の要領に従って記載する。

（1）本文の区分けは、ゴシック体などを用い、大見出し、小見出しなどを明瞭にする。項目細目記号を用いる場合は、1.、2.、3. ･･･、1)、2)、3) ･･･、(1)、(2)、(3) ･･･、i)、ii)、iii) ･･･の順とする。

（2）句読点（「、」および「。」とする）、括弧、ハイフンなどは1コマに書き、新しい行の初めは1コマあける。英数字は原則として半角とし、数字と単位の間には半角スペースを挿入する（℃、%を除く）。

（3）本文中では「次の表」のような表現を避け、Fig. 1 または Table 1 のように書く。

（4）図、表、文献（筆頭者のアルファベット順）、略字、記号などは、AJEV 誌ホームページ掲載の最新の Guide to Authors の記載に従う。

（5）文献を引用する場合、著者の姓と発行年を半角スペースで区切り、括弧で囲んで示す。なお、著者名が 2 名までの場合は姓を列記し、「日本語」の場合には引用する文献が外国語で記述されたものであっても「・」で区切り、3 名以上の場合は「筆頭著者ら」とする。さらに、同一箇所に複数の文献を引用する場合は、筆頭者のアルファベット順に並べる。≪「日本語」の例：(Goto・Hashizume 2000、松井ら 1999、奥田・横塚 2004、2005、佐藤ら 1998a、b)、「英語」の例：(Goto・Hashizume 2000, Matsui et al. 1999, Okuda・Yokotsuka 2004, 2005, Sato et al. 1998a, b) ≫

（6）一般化している動、植物名、外国語はなるべく片仮名で書く。学名を用いる場合、属、種、亜種名はイタリック体とし、命名者名を付す。ただし、命名者名は最初の記述のみに付し、その後は省略してよい。品種名は原則として‘○○’（single quotation）で囲む。アルファベット表記の場合、頭文字は大文字とする。

（7）物質名は原則としてその名称を略さずに片仮名で書く。ただし、複雑な有機化合物など化学式、英名を用いた方がわかりやすいときは、その限りでない。有機化合物名、酵素名、標準的実験方法などには略語、短縮形を用いることができる。その場合、論文中で最初に記述される箇所でその完全な名称を記し、以下で用いる短縮形を括弧に入れて示す。

9）割付は原稿が受理された段階で、編集委員から指示された割付例に従って作成し、MS Word および pdf ファイルで提出する。この割り付けが製本に使用される。

日本語割り付け例

［**Research Note**］

割付例

○○○

○○○

英語投稿

［**Research Note**］

割付例

○○○

○○○